

企業の人材育成における体育会集団スポーツの意義

Human resources development of companies: The meaning of college sports

1 K10C318-0 西村佳那子

主査 原田宗彦 先生

副査 作野誠一 先生

《序論》

近年、雇用のミスマッチが深刻化しており、若年者の3年以内の離職率は30%にも上るという。その一方で、スポーツに関しては、2020年に東京オリンピックを開催することが決まり、スポーツの意義が再認識され始めている。そこで本研究においては、「体育会集団スポーツ」に限定することで、スポーツの特性をより明確にし、更には「体育会集団スポーツ」を企業と結びつけることで、スポーツの意義について理解を深めようと考えた。

《企業の求める人物像と企業の人材戦略》

企業の求める人物像は時代と共に変化してきた。従来は高度経済成長期で大量生産・大量消費が主流であったため、職務遂行能力が高い人が求められていた。しかし、情報化社会や顧客のニーズの多様化などのグローバル化の到来により、次第に企業も「社会人基礎力」を求めるようになり、OJTやOff-JTを行ったり、自己啓発を推奨したりすることで、人材の育成にも力を入れ始めた。近年では、「コミュニケーション力」や「チャレンジ精神」などが特に重視されている。これは若年者の離職率の原因である人間関係や、困難に遭った際の耐久性などの課題を解決するためのスキルとして認識されている。これらの能力は、急激な時代の変化に対応するために必要と考えられる。

《体育会集団スポーツ》

「体育会集団スポーツ」の特性を、スポーツ・体育会・集団スポーツに分けて考えると、スポーツは身体面・精神面・健康面に関するサポートを行っていると言える。更に、「体育会」は、目標達成志向が強い集団であることから、目標達成のための「チャレンジ意欲」や厳しい練習を耐えるための「体力」等が養われることが明らかになった。また、「集団スポーツ」としては、個人スポーツよりも相対的に「心理的競技能力」が高く、その中でも特に「協調性」に優れているということが明らかになった。つまり、「体育会集団スポーツ」は

スポーツで培われるスキルのうち、競技性の高さや凝集性の高さを示すスキルが特に培われるということが明らかになった。

《体育会集団スポーツと企業の比較検討》

第二章と第三章から、現在9割の企業で重視されている「社会人基礎力」と、「体育会集団スポーツ」で培われるスキルがどの程度マッチングしているのかを検証した。その結果、「社会人基礎力」の中のトップ5である「コミュニケーション力」「チャレンジ精神」「主体性」「協調性」「誠実性」の観点において、「体育会集団スポーツ」の優位性が明らかになった。「コミュニケーション力」に関しては、スポーツを行う時点で身に付き、更に体育会に所属することで共通の高い目標を達成するために行ったり、集団スポーツにおいて協力してプレーを行ったりする点でも育成される。また、「チャレンジ精神」や「主体性」などは、体育会における目標達成志向が影響しており、「協調性」に関しても個人スポーツよりも集団スポーツの方が優れていると言える。また、「誠実性」に関しては、スポーツはスポーツマンシップに則って行うという点で培われるスキルであると考えられる。以上の点から、「体育会集団スポーツ」は、身体面の成長に加え、精神面での成長にも大きく貢献しており、それが企業の人材戦略においても重要な役割を果たしていると考えられた。

《考察》

「体育会集団スポーツ」における獲得スキルは、企業の求める「社会人基礎力」と合致しており、企業の人材戦略における「体育会集団スポーツ」の意義が明らかになった。また、「体育会」や「集団スポーツ」に限定することで、スポーツの競技力の差や性質による獲得スキルの違いも明らかになり、企業の人材戦略を考える上で、重要な役割を担っていると言える。